第４１回全国中学生人権作文コンテスト福島県大会
福島民友新聞社賞

僕が僕らしく生きるために

須賀川市立岩瀬中学校　１年　　石井　太陽

僕が人権作文を書くことに決めたのは、二つ理由があります。一つは読書が苦手で、なかなか一冊の本を読みきることができず、読書感想文を書くことが難しかったからです。小学生のうちは母や姉に手伝ってもらい、なんとか提出していました。中学ではいくつかの作文コンクールから選択できたので助かりました。もう一つの理由は、僕が自閉スペクトラム症だからです。自分にこの障がいがあることを、今まで誰かに話すことは怖くて避けてきました。けれど、この夏休み中、僕と同じ障がいをもつ主人公が奮闘するドラマや過去に放送されたドキュメンタリー番組をみて、人権作文を通し、自分の障がいと向き合ってみようと決意が固まりました。

自閉スペクトラム症とネットで探索すると、「対人関係が苦手・強いこだわりといった特徴をもつ発達障がいの一つ。」と出てきます。発達障がいは知っている人が多いと思いますが、自閉スペクトラム症が含まれることや学習障がいや注意欠陥・多動性障がいなどさまざまな障がいも含まれていることはどうでしょう？発達障がいは百人いたら百通りの発達の凹凸があり、障がいごとの特徴が少しずつ重なりあっていることが多いので、一括りに説明できるものではありません。また、発達障がいは外見からはわかりにくく、その症状や困りごとも百人百色です。僕の場合は、自閉スペクトラム症と併せて、構音障がいと発達性協調運動障がい、チック症があります。緊張やストレスが大きくなるとチック症の症状の一つ、首ふりが無意識に起こります。脳機能の問題なので、自分の意思で止めることができません。発達障がいは脳機能の発達の偏りが原因で、生まれつきのものなので、薬や手術で治る病気とは違います。だけど、成長しないわけではないので、適切な療育、訓練を早期に開始できれば、生きづらさを少し緩和することができます。しかし、定型とは違う発達の仕方をするので、普通や常識から外れてしまい、偏見や差別にさらされる対象になりやすいです。僕は、療育センターで言語訓練と作業動作訓練を就学前に受けることができましたが、滑舌が悪く、正しい発音を習得するのに時間がかかり、小学校に入学してからも他校にあることばの教室に通級していました。ことばの問題でいじめが始まったのは年長の時からです。バカ呼ばわりされたり、「か

つぜつって言ってみな。」と笑い者にされました。もしかしたらことばの問題だけではなく、協調運動障がいのため、動きがぎこちなく変にみえていたり、超絶不器用で工作や絵が下手なこともいじめの理由になっていたかもしれません。それに僕は自分の気持ちを表現したり、順序だてて話しをすることも苦手で、意地悪されても言い返せず、先生に相談することもできなかったので、僕がいじめられていると悩んでいたことは、誰もわからなかったかもしれません。僕はストレスで乞音を併発し、最初のことばがうまく出せないどもりの症状にも苦しみました。今は、乞音はでませんが、このような不安な経験は二次障がいを誘発します。自己肯定感が低い発達障がい者は、思春期以降に適応障がいやうつ病になるケースが多いようです。父と母は僕がそうならないよう、誉め上手な指導者を見つけて、僕の自信につながる習い事をさせてくれました。小学校の六年間習ったそろばんと、小六から始めた卓球は僕の心の支えです。

「発達性協調運動障がいがどんなものかを説明するとき、手袋を三枚装着して折り紙する感覚と伝えればいいよ。」と療育センターの作業療法士さんが教えてくれました。障がいがある事実は変えられないし、ないことにできないのだから、自分が自分の障がいを理解して、何に困っていて手助けが必要なのか、僕が自分でＳＯＳを発信できるようになっていかなければなりません。

日本を発達障がい大国と揶揄する言葉があることを知りました。本来なら人権で差がでるものではないのに、日本は国家レベルで空気を読むことを国民に求める風潮があるため発達障がい者の困ったときにでる行動が他の国では許容されるものでも、それは異常だと疎外し、みんなが同じであることを求めます。

人権作文コンクールで障がい者の人権問題について書かれた作文には、障がいのある家族や友達を通して考えたこと、パラリンピックをみて思ったこと、身体に障がいのある人が障がいに向き合い、その気持ちを綴った体験談などいろいろあります。僕はどの作文にも共通して「共生社会」という信念があると感じました。障がいのある人もない人も、支える人と支えられる人に分かれることもなく、共に支え合い、さまざまな人々の能力が発揮されている活力のある社会の実現。

僕が僕らしく生きるために。僕はこの作文で自分の成長を知ることができました。今は最後まで作文を完成させた自分を誇らしく思います。